

### PICA 山中湖ビレッジ



(上)オーガニックガーデンのようす  
(下)ハーブのスパイラルガーデン

PICA山中湖ビレッジ WEB  
<http://yamanakako.pica-village.jp/>

昨年7月にオープンしたPICA山中湖ビレッジは、富士五湖にある環境型宿泊リゾート施設である。  
最大の特徴はバーマカルチャーのライフスタイルを実際に体験できるようにしていることだ。  
敷地内には管理棟を兼ねたオーガニックレストランとエコショップ、ハンモックに揺られながらくつろぐハンモックカフェがあり、日帰りでも立ち寄ることができる。  
さまざまなスタイルのオーガニックガーデンと宿泊用のコテージで、取り囲むように配置されたオーガニックファームでは、ワークショップが行われている。雨水をためる木樽が置かれ、オーガニックファームの中心に立つ揚水風車がともシンボリックである。管理棟は循環を感じられる持続可能な建築手法を取り入れていて、パッシブソーラーシステム「そよ風」と発電能力3KWの太陽電池パネルを搭載。

暖房にはバイオマス燃料の木質ペレットを燃料に、炎を楽しめるFF式ペレットストーブと、温水をつくるペレットボイラーが装備され、床暖房に利用されていた。建築素材は、国産木材や漆喰壁などの自然素材で構成されている。  
バーマカルチャーを体験できるオーガニックガーデンでは、自然の力で水を浄化するバイオフィルタリーや雨水を再利用する仕組み、堆肥づくりのコンポストやそのプロセスなど、さまざまなテクニックを体験出来る。オーガニックガーデンで収穫した農作物は、ここで実際に利用される仕組みになっている。観光施設であるため訪れた人たちに、バーマカルチャーのコンセプトをどこまで理解してもらえるのか多少の心配はあるものの、もし機会があれば訪ねてもらいたいエコテーマパークの一つである。



(上)エコグッズショップ  
(下)木樽は雨水タンクのカバー

オーガニックレストラン

※解説…バーマカルチャーとは  
パーマメント(持続可能)・アグリカルチャー(農業)・カルチャー(文化)をかけた造語である。  
1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な生活環境をつくるデザインシステムのこと、自給自足を旨とした有機菜園や果樹園、家畜の飼育を住宅の周辺に配置した農的暮らしのスタイルが特徴である。  
僕たちのエコ情報季刊誌「えこすた通信」でも、バーマカルチャーについて毎回紹介。

### 農的暮らしをデザインしよう ①



PICAの中心に位置するオーガニックファーム



管理棟のエントランス

揚水風車と貯水タンク

えこすたとは  
エコロジー、エコノミー、スタンダード、ライフスタイルなどを合わせて僕たちがつくった造語です。  
健康な住まいは安全な食品と変わらないと言うコンセプトのもと、エコハウスづくりのための自然建材を扱うエコショップの店名にもなっているのです。



エコデザイナー 西條 正幸

1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「西條インテリアデザイン」代表取締役。自然派生活提案「えこすた」店主。

「自然素材デザイナー西條正幸のブログ」もヨロシク!

## 菜園生活プロジェクト

僕たちが今計画しているプロジェクトは、まさにアーバンパーマカルチャーを実践するための計画だ。都会でもプチ菜園暮らしを楽しみながら、自分たちが食べる野菜はできるだけ自分でつくる。そうすることによっていろいろなことが見えてくると思う。最近の数々の食品偽装問題や薬物混入問題など、僕たちの見えないところでは何が起きているのか、信用できない時代になってきた。と言うか、今に始まったわけではなく、知らなかつただけ、知ろうとしなかつただけかもしれない。でもこんな時だからこそ、効率至上主義の生活に疑問を抱き、もっとシンプルで自由に暮らせる自分のライフスタイルを見直すチャンスではないか。お金が無いからあきらめるのではなく、身の丈にあった条件の中でできることを探すのだ。家を建てるなら小さな土地が良い。そこに自然素材の小さなエコハウスを建てよう。そして小さな畑をつくり家とのつながりを考える。後はいろいろお楽しみ、できることから始めてみる。

とカッコイイな。暖房は循環型の木や穀物を燃料にしたストーブで炎を楽しむ。最高だ！  
肝心のエコハウスだけど、これは有機菜園でできる野菜と一緒に。生産者の顔が見える近くの山の木で建てる。そして天然素材の断熱材と木や土で出来た建材を使う。選ぶ基準は簡単、食べても安全。これは大げさ。でも家のストーブで燃やしても有害ガスを出さないこと。裏の畑に埋めても生分解して土に返ること。この二つが基本だ。そして、最後に近所さんと畑つながりで仲良くなれること。考えただけでもワクワク、なんて楽しい。現在2つの菜園生活プロジェクトが進行中。えこすた生活、はじめよう！



菜園生活プロジェクトは  
[www.saijo-d.com](http://www.saijo-d.com)

えこすた会員募集中！  
会員になるとエコ情報季誌  
「えこすた通信」をお届けします。

## Ecology House

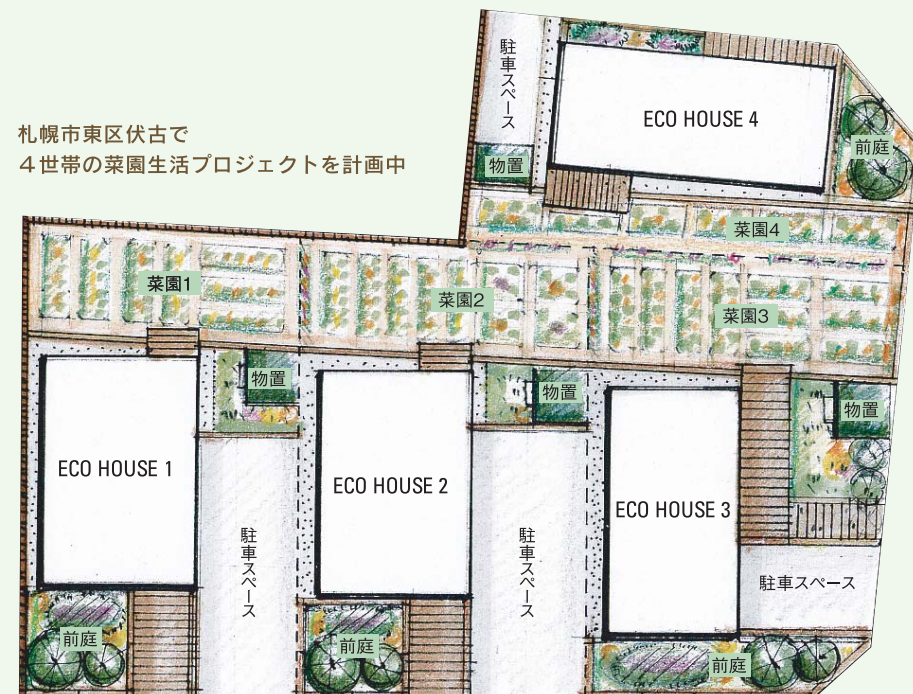
環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム  
エ/コ/ロ/ジ/ー/建/築/エ/房  
有限会社 一級建築士事務所  
西條インテリアデザイン  
本社 / 札幌市北区百合が原4丁目8-1  
tel. 011-774-8599 fax. 011-774-8581  
伊達支店 / 伊達市舟岡町50-28  
tel. 0142-22-0138 fax. 0142-22-0139  
ホームページ <http://www.saijo-d.com>

00  
資料請求

札幌市東区伏古で  
4世帯の菜園生活プロジェクトを計画中



伏古菜園プロジェクト イメージプラン



(上)ハンモックカフェのようす  
(下)宿泊用のログコテージ棟

木陰のハンモックでリラックスタイム

## アーバンパーマカルチャー

パーマカルチャーの手法を取り入れ、住まいを中心にした持続可能な暮らしのシステムをデザインし、都会でもパーマカルチャー的暮らしを実現してみようというのが今年のテーマである。  
パーマカルチャーの創設者のひとりである、デビッド・ホルムグレンが言うように、パーマカルチャーが主張する変革が、裏庭や家を基点に地域社会、世界、地球、宇宙へと広がっていくとするならば、僕たちが今できることを見えてくるはずである。家を建てる土地に暮らすことで、自然の一部にとけ込むような暮らし方ができるなら、なんてすばらしいことだろう。  
田舎暮らしが理想だが、現実には都会でがんばらなければならない。そんな人たちにも、パーマカルチャー的暮らしを都会のど真ん中で実践してほしい。こんな暮らし方をアーバンパーマカルチャーと呼ぼう。まずは小さくてもいいから、畑をつくろう。

そしてエコハウスと小さな畑をつなぐように、関連する仕組みや施設をデザインする。できるだけ近所さんとは、畑つながりになるのが理想だ。一人の小さな畑がつながることで、そこにはちよつとした都市菜園ができ上がる。黙っていたら無機質な建物が並んでしまう町並みが、命を感じさせる小さなオアシスを持ち、循環を感じさせる暮らしの中で自然とのつながりを持つことができるはずだ。  
エネルギーと水の消費について、資源とゴミについて、リユースやリサイクルについて、普段の生活の中で循環を感じられる環境を子供たちに残してあげるのだ。



FF式のドイツ製ペレットストーブ

水を自然の力で浄化するバイオフィルタ

コンポストで堆肥を作る